



旅する蝶 アサギマダラ



小糸南交流サロン

2023年7月5日 16時～17時

於) 自治会館ホール

ストーンアート



旅する蝶 アサギマダラの特徴は・・・(Wiki)



- 成虫の前翅長は5 - 6センチほど。寿命は成長になってから4-5ヶ月
- 翅の内側が白っぽく、黒い翅脈（しみゃく）が走る。
- この白っぽい部分は半透明の水色で鱗粉が少ない。
- 和名にある「浅葱（あさぎ）」とは青緑色の古称で、この部分の色に由来。
- 翅の外側は前翅は黒、後翅は褐色で、ここにも半透明水色の斑点が並ぶ。
- アゲハチョウ科の様に細かく羽ばたかずにふわふわと飛翔
- 人をあまり恐れずよく目にするため人気が高い。
- 夏から秋にかけてはフジバカマ、ヒヨドリバナ、アザミなどのキク科植物の花によく集まり、吸蜜。
- 日本列島を縦断、さらに南の沖縄や台湾まで延べ2000キロメートル以上を飛んでいく
- 5月上旬から6月上旬頃、大分県姫島村のみつけ海岸のスナビキソウの蜜をもとめて、南の地（台湾など）から渡来。休息したのち涼しい北の地（北海道積丹あたり）に向かって飛び立ちます。



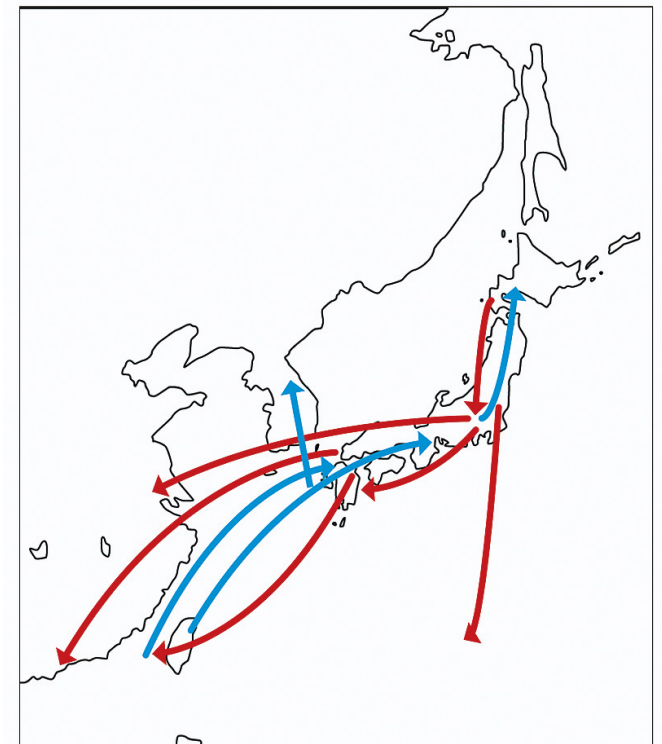
旅する蝶 アサギマダラの飛来ルート・・・



春～夏には台湾・南西諸島から数世代で本州・北海道へ北上し、秋には逆のコースで一気に北海道・本州から南西諸島・台湾、時には中国大陆まで一世代で南下することが判明



本州の北方では裏磐梯のデコ平（グランデコ）の群生が有名



“ChatGPT（生成AI）による” 旅する蝶アサギマダラ



(1) 高い飛行能力:

(AI) アサギマダラは、長距離を飛ぶことができる蝶として知られている。特に北アメリカの個体は、夏季にカナダやアメリカの北部で繁殖し、冬季にメキシコまで数千キロメートルを移動することがある

→ これは不正確なAIの回答・・・北米の個体とは“オオカバマダラ”のこと



(2) 上昇気流の利用:

アサギマダラは、上昇気流を利用して効率的に飛行する。上昇気流は暖かい空気が上昇することによって生じるので、蝶がエネルギーを節約しながら高度を上げるのに役立つ。

(3) ゆったりとした飛び方:

アサギマダラは、比較的ゆったりとした飛び方をすることがある。羽を広げた状態でゆっくりと翼を振ることで、風に乗って滑空するような動きをする。

(4) 群れでの移動:

アサギマダラは、しばしば大規模な群れで移動することがある。この群れ飛びは、安全な経路を見つけたり、エネルギーを節約するための効果的な戦略とされている。樹木に群生している時、朝日が差した群れから順に飛び立っていく。

その他（wikiによる）：有毒のガガイモ科植物を幼虫が食べることから、成虫も食草由来の有毒成分を体内に蓄積するため、鳥などの天敵から捕食されにくい。

- ただし個体によって飛び方は異なる場合があり、環境や状況によっても変化することがある。
アサギマダラの飛び方は、その美しい姿とともに、私たちに自然の不思議さを感じさせてくれる。

アサギマダラ・ストーンアート製作者と私の関係



- ◆ アサギマダラのストーン・アート製作者 Y.幸造さんとは、
 - 学生時代5年のうち、3年間の間、下宿を共にした友人。
 - 彼の趣味は、牛の育成とバードカービング（野鳥彫刻）。
 - 彼は大学時代から、そして卒業後は、東北大学 農学部 畜産系大学院へ進学して、以来50年にわたり牛の育成一筋。
- 就職後は黒毛和牛5等級の育成で、最終的に東広島県の畜産繁殖研究所に勤務。
- この頃、東広島県の「酒まつり（10月第2土・日）」を楽しみに彼を訪問。
何と当時は1000円で飲み放題！（今は1600円らしい）
- 東広島県には10つの酒造があり、有名なのは賀茂鶴、福美人。
- 当時黒田は飲むだけでなく牛の鼻紋（牛の個体識別）の研究でこの研究所を訪問
- 今、黒田家の飼い犬シェルティー（犬）は、偶然にも一昨年東広島県のブリーダーから購入。（新幹線で犬は手荷物と同じで140円でした）
- 幸造さんの住居：瀬戸内海・山口県周防大島で独居生活、近くにアサギマダラ園（周防大島は2018年に2歳の男の子が行方不明となり、大分県出身でのボランティアを生業としているの尾畠さん（78歳）が発見して一躍有名となった場所）

